

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

①第三者評価機関名

サービス評価センターはあとらんど

②施設・事業所情報

名称：障害者支援施設 グレイスホーム		種別：障害者支援施設
代表者氏名：近藤佑輔		定員（利用人数）： 30 名
所在地：群馬県渋川市渋川 4 4 1 7		
TEL：0 2 7 9－2 2－5 4 1 1		ホームページ：http://www.meguminosono.jp
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：昭和50年4月1日		
経営法人・設置法人（法人名等）：社会福祉法人恵の園		
職員数	常勤職員： 13 名	非常勤職員： 2 名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	サービス管理責任者 1 名	
	介護福祉士 4 名	
施設・設備 の概要	（居室数）個室 30 床（空床型）	（設備等）男女トイレ・浴室（リフト浴あり）・多目的室

③理念・基本方針

理念：「自らを愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」（聖書）

基本方針：

- ①「自らを愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」という法人のキリスト教精神の理念に基づき、運営をしていく。
- ②翌檜的福祉ではなく、そのハンディキャップをありのままに受け止め、一人ひとりの利用者が幸せに良く「生きる」ための支援をしていく。
- ③家庭に代わる生活の場として、安心と安らぎの生活の場、生活の時（流れ）を、利用者と職員が共に構築していく。
- ④あてがいぶち的な支援ではなく、「人間としての自立」を尊重し、利用者の主体的な生活の支援をしていく。
- ⑤利用者の生活を重視しつつ、「機能の回復及び開発」、「創る（作る）」、「育てる」、「働く」活動に力を入れる。
- ⑥「福祉は人なり」の基本にたち、職員の学び、成長に力を入れていく。
- ⑦施設も地域の一員として、地域との関わりを大切にすると共に、地域のニーズにも応えていく。

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・授産施設から障害者支援施設へ移行した施設であり、生活を支援するだけでなく、生産活動や創作文化活動にも力を入れている。
- ・法人内に複数の施設があるため施設設備や備品等の活用や困った時に相談ができる。また、職員は配置転換などで異動先の身体障害や知的障害、高齢者施設で多くのことを経験、学ぶことができる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和7年9月24日（契約日）～ 令和8年5月18日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成29年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1、『自立支援』を念頭に職員は支援している。授産施設時代からの利用者もあり、それまでの生活方法や行動を断ち切らすことのないように、障害者施設へと切り替えてきた様子がある。就労継続支援 B 型事業の作業所に通う利用者や居室で過ごしている利用者、用事で外出する利用者、決められたエリアではたばこが吸えて、喫茶店で食事やお酒が飲める等の自由でゆったりとした日常の生活に対応している。これは法人理念である『自らを愛するようにあなたの隣人を愛しなさい』を具現化する支援であると確認することができた。

2、職員への教育、研修や人事考課制度など人事管理が整っており、職員が働きやすい職場環境に努めている。

◇改善に向けて取り組んでいる点

1、福祉業界全体の課題である働く人の確保においては法人として努力はしているが、なかなか難しいのが現状であり、利用者からの『以前のように…、前はもっと』という声を確認している。配置基準の他に+αの人材が確保できれば利用者の希望（リハビリの充実・余暇活動の多数回の出席等）が満たされるため、現従業員がやりくり努力している様子が確認できた。

2、老朽化した施設内の整備に取り組んでおり、安全で心地よい生活環境の維持と管理に努めている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

評価を受け、自分たちの支援がどこまで共通認識出来ているかを把握することができました。口頭での申し送りなどはしていましたが、マニュアル等の整備が不足している所もあり、取り組んでいかななくてはいけない内容が表面化することが出来ました。

出来ている事、出来ていない事が評価として現れるのは自信にも繋がりますし、改善案を考えられるきっかけにもなったと思います。今回の評価を通じ、私たちの考える【利用者に寄り添った支援】を強化していきたいと思います。

⑧評価細目の第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。